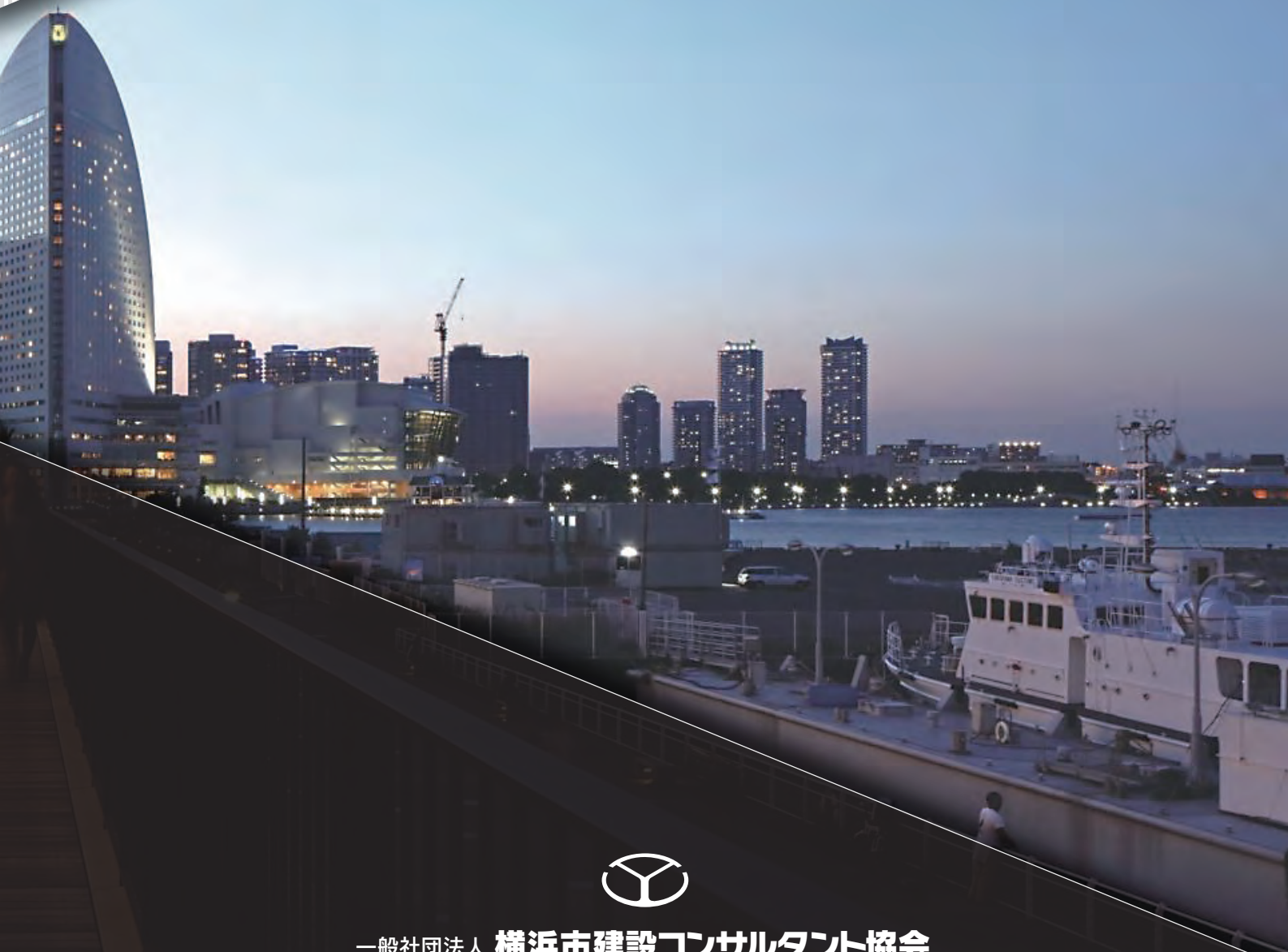


SHI-CON JURNAL.
BAYTALK No.2
Yokohama Construction Consultants Association JOURNAL 2019.1.31

2019
1



一般社団法人 **横浜市建設コンサルタント協会**

Yokohama Construction Consultants Association.

CONTENTS.

山本実会長挨拶 1

女性会議 2

道路局対話会 2

第12回技術研修会 3

賀詞交歓会 3

協会活動について 4
副会長 企画運営委員長 石崎 浩

市コンの存在 4
副会長 総務委員長 菅原孝博

組織図・協会員リスト 5

✓ 親睦ボーリング大会を開催します。

- ・開催日時：平成31年5月中旬
- ・詳細は後日連絡致します。

✓ 第11回通常総会

- ・会場：ホテル ザ ノット ヨコハマ
- ・開催日時：平成31年6月7日(金) 15:00 ~ 16:00

✓ 陳情活動

- ・開催日時：平成31年7月～8月





新年明けましておめでとうございます。

協会員の皆様には希望に満ちた新年をお迎えられたこととお慶び申し上げます。また、去年は当協会活動にご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

この1年、理事の方々、また協会員の皆様のご協力を頂きながら魅力ある協会づくりを基本理念として協会活動を展開して参りました。主な活動としては、各種協定に基づく官民一体となつての地域貢献活動、さらに技術研修会・現場見学会を開催し、この業界で働く皆様の知識習得と普及活動に努めて参りました。また、魅力ある協会づくりの一環として、去年はボーリング大会や女性会議を初めて計画させていただき、普段話をする機会が少ない協会員同士が、共にこの業界で働く同志であることの連帯意識が持ち得るコミュニティの場作りにも努力して参りました。見える成果を得るには多少時間がかかるかもしれませんが、今後も継続して相互扶助が果たせればと考えております。

さて、去年もまた天候不順による集中豪雨や度重なる大型台風の来襲、北海道を襲った胆振東部地震により、多数の被害が発生し、多くの命や建物が失われました。社会資本整備に携わる我われコンサルタント業者の使命は、より良質で安全な構造物を作るための技術サービスを提供し、誰もが安心して住める国づくりに貢献することにあるものと考えております。しかしながら、今、社会は急速な高齢化・人口減少・労働力不足などかつて経験したことがない状況を迎えつつあります。我われはこの経験もしたことがない厳しい時代環境におかれながらも、我われが必要とするスキルの向上は常々追求めて行かなければなりません。どんなに社会情勢が変化しても社会資本整備や環境保全の必要性が失われるものではないからです。そのためには、今までにはない新しい発想と柔軟な考え方をもち、協会員の皆様とともに前向きに努力を重ね、議論して行くことが、協会の発展とともに協会員皆さんの発展へと繋がるものと確信しております。

今年も理事全員が一丸となつて協会員の皆様と共に歩むことが出来る施策を、誠心誠意、考えて参ります。今後も協会員の皆様にはご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



平成31年元旦

一般社団法人 横浜市建設コンサルタント協会
会長 山本 実

女性会議が開催されました。

2018.10.10



昨年10月10日、『ホテル ザ ノット ヨコハマ』にて女性会議が開催されました。

これは当協会の掲げる「協会及び協会会員企業の魅力アップ」推進の一環として、協会内の働く女性同士のコミュニケーションを図り、より良い労働環境の実現を目標としたものです。

議長のあいさつの後参加者全員で自己紹介を行い、それぞれの職場での日々の悩み・疑問・職場自慢等を出し合いました。初対面の人がほとんどで最初は皆固い面持ちでしたが、同業者の女性同士で話す機会が普段なかなかない為、共感したり感心したり段々と話も弾み、最後は和やかな雰囲気の中閉会となりました。

初めての試みということで手探り状態から始まった企画でしたが、事務・技術・営業と異なる職種の女性たちから様々な生の声を聞くことができました。会員企業の更なる魅力アップの為にその声をどのように反映していくかが次の課題となります。



横浜市道路局対話会

2018.11.7

昨年11月7日、横浜市道路局と初めてとなる対話会が道路局局長室にて開催されました。

当日、道路局からは乾局長をはじめ、理事、副局長、各部長など10名の方のご出席を頂き、当協会からは山本会長をはじめ、副会長、理事など計7名が出席し、議題の「働き方改革」について意見交換を行いました。

今年度、国会にて働き方改革関連法案が可決・成立したことを踏まえ、横浜市での建設コンサルタント業界における働き方改革について、①具体的な課題、②課題に対する対応策などが話し合われました。



課題としては、「長時間労働」や「正規・非正規社員間の格差」などが挙げられました。

当協会は横浜市に対する課題への対応策として、「安定受注のための計画的な発注」、「適切な工期設定」や「地域の実情に合わせた契約方法の選択」などを要望事項としてお願いしました。

乾局長からは各要望に対し、今後も継続的に注力して行くことのご回答を頂き、当協会も今後とも、「現状の労働環境改善」や「中長期的な担い手の育成・確保」に対する企業努力は継続して行っていくことを約束させて頂きました。



第12回技術研修会

2018.11.16



昨年11月16日、関内ホールにて「第12回技術研修会」を開催しました。今回は3名の方に最近の下水道事業における最新動向を取り上げて頂き、最後に花上理事による「下水道BCP(管路)と当協会との関わり」について講演を行いました。

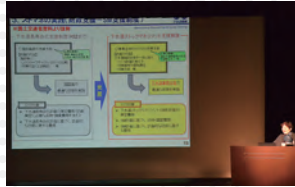
近年のゲリラ豪雨による浸水被害に対する取り組み、年々増大する下水道施設の維持管理技術の最新状況、また老朽化施設の管理にストックマネジメントを活用して、厳しい財政の中で進める方法等を御講演頂きました。

ストックからの施設情報に気象庁等の観測情報を組み入れることで、より現実的な浸水予測が出来、そこからの対策が立てられることがわかった。また、各自治体がストックマネジメントをなぜ進めているかを理解できた等の感想も聞かれました。また、下水道BCP講演では、災害時に協会がなすべき行動は当局からどのように期待されているか、それを理解したうえでどのように防災時、行動しなければならないかを改めて認識した、参考になったという意見もありました。

【効率的効果的な浸水対策に向けた取り組み】
日本下水道新技術機構 戸谷副部長



【下水道におけるストックマネジメントの取組】
日本下水道新技術機構 後藤副部長



【横浜市における下水道管きよの維持管理】
横浜市環境創造局管路保全課 新田課長



【横浜市下水道BCP(管路)と本協会の災害時行動について】
当協会 災害対策委員長 花上幸弘



賀詞交歓会

2019.1.18

4団体合計143名、横浜市含む来賓47名、合計190名の過去最大の建設関連4団体賀詞交歓会がローズホテル横浜にて開催されました。冒頭、挨拶に立った山本会長は、来賓への御礼に続き「4団体は今年11年目となる。年初めに目標を立てたいが、とにかく忙しい。お客さんも我々も人がいなさすぎる。お互いに協力関係を持たなければ成り立たない状況になっている。新たな事を始めるのではなく、今ある仕事をより良い成果としていかに仕上げるかに知恵を絞っている。昨年は道路損傷報告での表彰、下水道管きよ BCPマニュアルに基づく実地訓練、水道局との技術研修会等、高い評価を頂いた。その信頼関係を裏切ることなく頑張り、また継続しなくてはならない。



われわれ4団体抜きにして横浜市民の安全は守れない、みんなで力を携えていく時代に突入した。4団体が互助の精神をもってお互いが助け合っていくことを今年は掲げたい。」と熱く語った。

来賓の代表として、横浜市道路局の乾局長は、4団体の技術協力への御礼に続き「道路損傷等の報告やみなとみらい地区での清掃活動等、業務以外でのボランティア活動に関しても本当に御礼申し上げます。今年はアフリカ会議やラグビーワールドカップ等、横浜にとって大きな行事があり、国内外から多くのお客様がお見えになります。インフラ環境のさらなる整備を推進し、維持管理をしっかりとやることが重要です。そのうえで4団体のさらなるご支援を頂きたくお願いいたします。

また、要望を頂いており法案成立した働き方改革についても、発注の平準化、ワンデーレスポンスの取り組み等について局内にて議論しております。

いずれにしましても、横浜の街づくりを進めていくうえで、また市民の安全安心を確保して行くためには、どうしても4団体の方々のお力が不可欠です。引き続きご協力をお願いいたします。」とのお言葉を頂戴しました。



協会活動について

当協会は、一般社団法人として再出発してから、3月末で10年が経ち、13社で設立した一般社団法人も24社となりました。民間企業は営利を目的として活動していますが、協会は営利を目的とせず、業界の発展と技術力向上、そして地域社会への貢献を目的とした活動を行い、協会員各位の協力の下、毎年結果を残していると感じています。

最近の社会では、自分本位の考えで法律を解釈し、自分を守ろうとする傾向が見受けられます。我が家の周辺でも、個人情報保護法を盾に取るように、引っ越してきた方は挨拶も表札もなく、最近出来たアパートでは、アパートだけのゴミ収集を行い、近隣住民との接点を出来るだけ少なくする工夫をし、自治会に入らない仕組みを作っています。しかし、近年は毎年のように大きな災害が発生し、いざ災害や問題が発生した時、自治会や近隣、そして人のつながりが強力な力を発揮し、その延長に安心・安全が確保されていることも事実です。

横浜市内本店で国土交通省から建設コンサルタント業登録を受けている企業は71社で、その中には、ゼネコン・団体・メーカー・地質等土木設計以外21社も含まれ、協会員24社+土木設計以外21社+協会員以外26社(土木設計系15社+造園設計系11社)となります。

非協会員には、何故無償の働きをしなければならないのか、と考える企業も多いと思いますが、協会員の方々には、自分たちが社会資本との接点に立っている事を認識していただき、協会活動を進めていただきたいと思います。

私は協会活動の中で、技術発表会や現場見学会を担当し、各社技術者の顔が見えている中で無理なお願いをして、協会活動に時間をかけさせています。この行動に心苦しさを覚えることもありますが、協会活動を継続することにより、発注者の顔が見え、意見の言える関係が継続されると信じております。

協会活動は、会員各位の協力の下に成り立っています、今後もご支援をお願いいたします。



一般社団法人 横浜市建設コンサルタント協会

副会長 企画運営委員長 石崎 浩

市コンの存在

前身の市コン設立が平成10年4月、法人化し再出発が平成21年4月。20年余りの歴史の中で、事務局という肩書も16年目になりました。当時の私の目標は1社1億の受注確保！当然自分の会社も横浜市から1億！（本音です）とにかく仕事が欲しい、会社の売り上げ、そして会員の売り上げを伸ばしたいという気持ち一心でした。

東京に本社を構える大手コンサルへの業務はすべて市内で出来る！と思う？ただし、そんなこと言っても360万都市(当時)に1社では立ち向かえない、スクラム組んでみんなで受注を増やそうという目標に向けてひたすら走った気がします。当時は技術力の向上や市への貢献という気持ち、観念はあまり考えられず、顧問であられた故伊波洋之助先生先導のもと、いけいけで陳情していたことを思い出します。

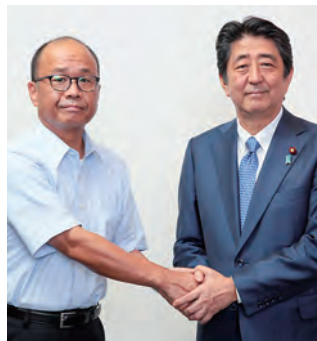
その効果もあり、中小企業振興基本条例の追い風により、満足いく業務量やシェア・・・まではないにしろ受注も増え、叱咤激励されながら会員企業も力をつけました。協会員も増え、各社が横浜市に対して何らかの恩返しをしようという気持ちが出てきたのが法人化してから10年。山本会長先導のもと、災害協定や技術交流による市への協力、結果そこから派生する市民サービスへの協力、そして市への貢献による協会の存在価値の向上。知恵を絞りに絞ってこのように変化してきたのだと思います。

市との関係をどのように構築していくか・・・協会への要望が出る、また相談が多くなっていく、そしてそのレベルも上がる。具体的な行動が問われていますし、結果を求められる。協会の仕事が増える。通常業務との板挟みになります。しかしこの要望、期待される行動から逃げてはいけません。

建設コンサルタントという業務の特殊性により、客先とは密接な関係を良好に保つことが求められます。協会も同様に、市に対して要望を願うばかりではなく、どのようにしたら共に歩めるか、どのような行動が市のために、市民のためになるかを考え、進みます。

これからも協会に求められる行動、意見、要望は多くなり、高度になります。さらに横浜市役所移転を迎える2020年以降、市の入札制度や業務に対し、変化を求められることが必ずあります。当協会はその受け皿としてだけでなく、単なる市の聞き役でもない、会員の声を、協会員の思いをきちんと横浜市に伝える団体になりたいと思います。

引き続き協会活動へのご理解、ご協力をお願いいたします。



一般社団法人 横浜市建設コンサルタント協会

副会長 総務委員長 菅原孝博



(目的) (協会定款抜粋)

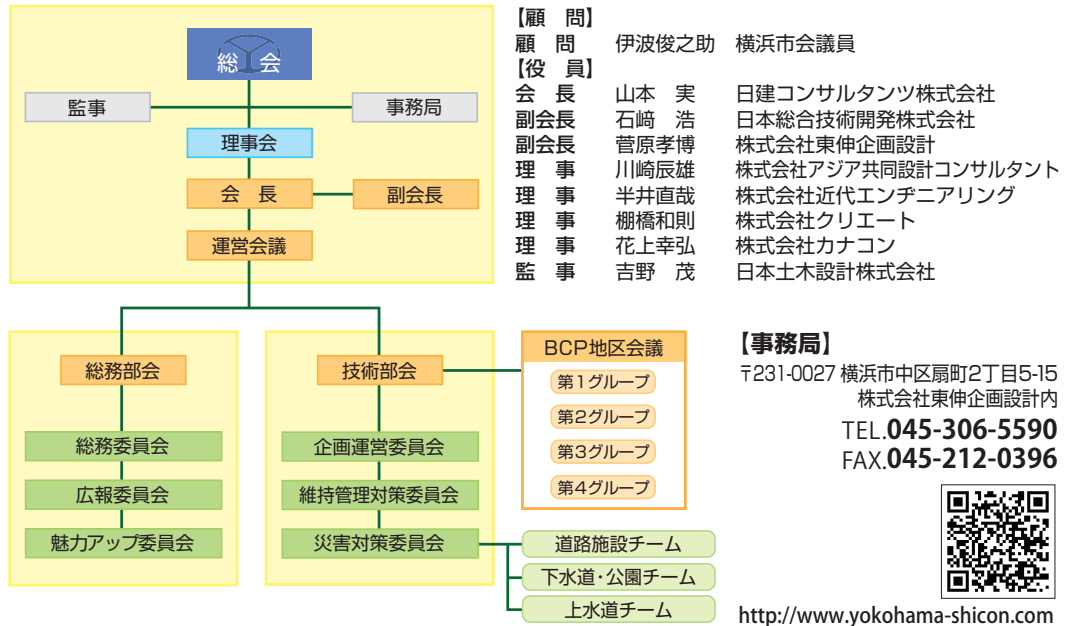
第2条

当法人は、建設コンサルタント業の健全なる発展と向上をはかり、地域社会の発展に広く貢献し、災害等緊急時には速やかに対応することを目的とする。

② 当法人は、前項の目的を達成するため次の事業を行う。

- 1.建設コンサルタント業務の進歩改善に関する調査研究。
- 2.会員相互の技術の研鑽及び技術情報の交換。
- 3.地域社会、関係団体との交流と関連技術の提供。
- 4.その他当法人の目的を達成するために必要な事業。

組織図



会員 ※2019年1月1日現在。

- | | |
|-------------------|---|
| (株)アジア共同設計コンサルタント | http://www.aec-inc.jp |
| (株)イー・アンド・エム | http://aam.co.jp |
| (株)大野土木 | http://www.ohno-doboku.co.jp |
| (株)開発技術コンサルタント | http://www.kgc21c.com |
| (株)カナコン | http://www.kanacon.com |
| (株)共和技術コンサルタンツ | http://www.kyowa-gc.co.jp |
| (株)近代エンジニアリング | http://www.kindaieng.co.jp |
| (株)クリエート | http://www.c3create.co.jp |
| (株)建成社 | http://www.kenseisya.com |
| (株)コーセツコンサルタント | http://www.kosetsu.co.jp |
| (株)幸徳環境設計 | http://www.kotoku-kks.com |
| (株)相信設計 | http://www.sou-sin.com |
| (株)高島テクノロジーセンター | http://www.t-tech.co.jp |
| (株)多摩開発コンサルタント | http://www.tou-sin.co.jp |
| (株)東伸企画設計 | http://www.topeg.co.jp |
| トップエンジニアリング(株) | http://www.nikken-c.co.jp |
| 日建コンサルタンツ(株) | http://www.n-sk.co.jp |
| 日本設計(株) | |
| 日本総合技術開発(株) | http://www.toshi-seibi.co.jp |
| 日本都市整備(株) | http://www.ndse.co.jp |
| 日本土木設計(株) | http://www.e-yec.jp |
| 横浜エンジニアリング(株) | http://www.ycg-net.co.jp |
| (株)横浜コンサルティングセンター | http://www.lans-plan.co.jp |
| (株)ランズ計画研究所 | |



SHI-CON JOURNAL
BAYTALK No.2
Yokohama Construction Consultants Association JOURNAL 2019.1.31

2019
1



一般社団法人 **横浜市建設コンサルタント協会**

Yokohama Construction Consultants Association.